京城新報

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十錢▲特別欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久・神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話大三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町十番地

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からす

## 雜錄

### ●宿命轉換の成否

天象子談

諸處歷遊の途次去月大連より入京し目下京城ホテル別館に滯在運命及運命開拓鑑定に信用を博しつゝあるアストロジー兼フレノロジスト磯野天象子の語りたる談話の要下の如し

◎我々人類の宿命は果して轉換し若くば開拓することの出來るか自己努力の外に天地自然の絶大理法の作用に由つて之れを轉換することは可能の事に屬するか否かと云ふ事に就き先づ宿命の意義を一寸お話して置かねばならぬ

◎我々人類には禀けたる天命＝宿命と云ふものがある此の宿命は既に命數の決定したるもので大体に於ては人力の如何ともすることの出來ないものである我々は現世に出生すると同時に如何なる徑路を辿り如何なる運命に遭遇するものであるかゞ確定されて居る例せば甲は晩年即ち四十歳後になつて非常に富む人であるとか乙は初年の二十歳前後までは平安無事で相當教育も受けらるゝ人であるか中年の二十歳後に入ると必ず波瀾や苦勞、犠牲が多く晩年になつては更に不如意の事が多かつたり妻子に別れたり兎角非運に陥るべき人であるとか云ふことが確定されてある即ち之れを宿命と云ふ

◎扨て此の宿命は如何なるもので又如何にして觀識するかと云ふに西洋のアストロジーや觀相學で觀識することが出來るアストロジーとは考星學のことでアストロジーの原則と觀相學の大要は略ば一致符合することになるアストロジーでは地球を十二室に分けるのであるが之れが觀相の十二宮と暗合することになる其の二三の例を擧げるとアストロジーは地球を三百六十度とし一室を三十度に割り之れを天體地球の十二座に配當して此の惑星の運行を置き經度緯度を以て各人の生時を基礎とし三角術で推して行くと其人の性格や死亡又は災難の年月日時等がスッカリ掌を睹るが如く判ると云ふ方法である

◎其の十二室の第一室は形貌、生命、性質を司つて根の命宮に當り第二室は理財力、貧富、命錢を司つて財帛宮に應じ第三室は親族、兄弟、學問等を司つて兄弟宮に當り又第四室は住所、土地、遺傳等を司つて田宅宮に第五室は快樂、子女、男女の愛情を司つて男女宮に第六室は奴婢、下人、看護人の狀態を司つて奴僕宮に第七室は結婚を司つて妻妾宮に當るが如く以下十二宮に至るまでアストロジーと性相及觀相學とは殆ど一致することになる故にアストロジーに依つて測定された吾人の宿命は性相及び觀相術に依つて觀識されたる宿命と同一の結果に帰着すべきものである

●咸興農産物品評會 咸南咸興金融組合にては該組合の所管に屬する國有地小作人をして米、大豆、粟其他の穀類を出品陳列せしめ農産物品評會を開催したるが客月二十九日其發會式を擧げ同三十一日迄開催中は觀覽者毎日百餘名に達し盛況を呈したり

●咸南西湖津貯金奨勵 咸南西湖津警察署にては鮮人に對し貯金奨勵の結果昨年十二月より本月に渉る三ヶ月間に人員千二百九十九人金額百六十三圓に達せりと

●咸南北青の殖林園 咸南北青郡私立唱醒學校にては附近國道筋原野四百四十坪の貸下を受け殖林思想養成の為め桑苗白楊及アカシャ等の栽培を為す筈にて目下夫々計畫中なりと云ふ

## 文苑

○折にふれて　松琴生

武昌の野意氣天を衝く革命の軍陣ひろし冬の夜の月

○さと投げしもりのあと見る舷頭に寒月冴ねて波立ちさわぐ

○片だすき袖にまつはる長袖の未だ妻なれぬ水仕業かな

○ひさし髪くづして結ひし丸わげのうらはづかしき鏡臺のまへ

○たゞ一つ得たる密柑に幼な子の望みは足りぬ其笑顔はや

## 外事一束

▲英紙 陸相の獨逸行は誤解猜き易し獨に求むる所なるかを疑はしむと難す

▲獨逸 帝國議會議長選擧は各政黨協議の結果十日に延期をなしたりと云ふ

▲巴威 攝政辭職說傳はるも無根にて攝政は中央黨首領を招致新內閣を作る

▲英國 海相流一箔の大反抗にも拘らず愛蘭の自治問題に關し大演說を試む

▲伯林 に於ける英陸相は獨皇帝の御陪食仰付られ皇帝の次席の歡待を受く

▲陸相 訪獨の主旨は英が獨に對し攻勢をとるもの野心を打破するにありと

▲獨國 皇帝侍從武官ハーケン元帥は病勢革まり終に九日を以て逝去したり

## 新刊紹介

▲雲(第二卷二號) 號を逐ひ益々趣味を増し政治論あり文學及び藝術に關する氣焰あり又小說は短篇の萃を抜き雜錄亦面白き讀物を充たし附錄には雲入道の(雪の曙義士酪々傳)(義烈百傑正宗孝子傳)を載せたり(一冊十五錢福岡縣筑紫郡警固村明倫社)

▲ニコ〱(二月號) 不相變のニコ〱主義皷吹卷頭の訓言例によつて人々の慣を解き誌中の記事悉く笑を催ふさしむ特に記者の變裝記事頗る興趣に富めり(一冊十錢東京市新橋南金六町ニコ〱倶樂部)

▲月刊樂譜(第一號) 泰西の名曲は勿論彼の地最近の流行新曲より和洋調和樂に至る精選して月次之れを紹介するが本誌の目的なれば音樂器に缺くべからざるや言ふ迄もなし(一冊五錢東京京橋區銀座四丁目松本樂器合資會社)

▲書畫骨董雜誌(四十四號) 名家の書(股野藍田)佛教美術の話(姉崎正治)書談斷片(大口鯛二)及劍雜話(竹中公鑒)等本誌重要なる記事なり(一冊十錢東京市本郷湯島三組町書畫骨董雜誌社)

▲銃獵界(第八卷第一號) 新獵人日記(知者生)渡り狐(朝江生)付國獵紳遠征の報(南部齋庵) 北海道の熊狩(濱の島浦霞) 等の記事を收む獵界の人には好資料たるを失はず(一部十二錢横濱市本町二丁目金丸銃砲店)

▲農業雜誌(千百二十一號) 農器雜誌中の白眉たる本誌重要記事は農産增收の根本策(佐久間農學士)支那蠶糸界に警告す(本多農學士)を始め藝林殖民雜錄の各欄共有益のものを以て充さる(一冊五錢東京市麻布區本村町學農社)



## 梁川庄八

小金井蘆洲演

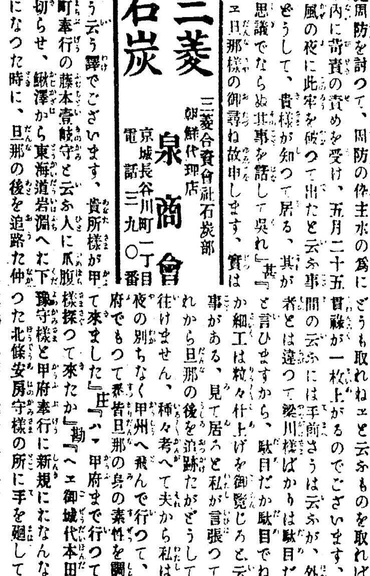
第百二回

長崎屋嘉右衛門は直ぐに代官屋敷へ飛んで行て、是々云々と届を致しました

三浦三右衛門驚いて、即時馬に跨つて長崎屋へ乗付て來て、奥の一室で梁川に面會を致し、先つ初見の挨拶が濟んで後ち三『イヤ飛んだ御災難何とも甚うも御氣の毒な樣で、早速手配りを致し曲者を取押へるやうに致すに依て、兩三日御滯在を願とう存じます』庄『イヤ拙者の無念から飛んだ御手數を煩して相濟まんが、何分共宜敷御願ひ申す』三『委細承知仕りました』そこで主個の嘉右衛門を呼んで三『梁川氏御滯在の間は粗忽のないやう、萬事丁寧に御扱ひを致せよ……』、御滯在中の萬事の費用は、代官屋敷より拂下げ遣すから、何卒御心置なく緩々御逗留を願ふ』と云つて三浦三右衛門は立歸つた、宜い名は買つて置たい者です、庄八は平氣で滯在をして居る、すると三日目に轎を持て代官三浦から、一寸御出を願ふと云迎ひ、出掛て行て見ると、三右衛門が面會をして三『早速ながら申上げるが、此者が怪しいと思つた者を悉く引上げまして御座います、其中にお荷物を奪ひました者が居りますや御覧を願いたい』庄『それは飛んだお手數を相掛け御配慮の段は厚く御禮を申します』三『何卒此方』へと案内を受けて白洲の所へ参つて見ると、ズーット珠數繋ぎになつて四十人ばかりの者が列んで居る、是は大變と思つて見ると、一番向ふの端の所に首頂低て居りますのが例の甚之丞と言つた奴、庄『ア、彼處に控へて居る者が拙者を欺いた曲者に相違ござらん……イヤ甚だ相濟んがどうか是は拙者に任せて貰きたい』自身履物を穿いて白洲を立下りて來て彼の甚之丞と言つた奴の前に來ると、庄『コレ頭を上げろ頭を上げろ』甚『ヘエどうも旦那樣何とも申譯はございません』庄『イヤどうも言葉遣いがすつかり變つて仕舞つた、うまく貴様俺を謀かつたな、實に感心をした』甚『ヘエどうも恐入りましてございます』庄『だが誠に不思議に思ふのは、人の物でも取らうと云ふ悪い奴であるから、諸國の國訛りなぞは巧みに使ふが當然であるが俺の親父の庄兵衛政繁が慶長五年菊月奥州會津松川に於ての軍物語り、藻庭周防の為に功を祢はれ腹を切つて死んだとやら、慶長十三年三月三日俺が藻庭周防を討つて、周防の伜主水の為に牢内に背責の責めを受け、五月二十五日風の夜に此牢を破つて出たと云ふ事をどうして、貴様が知つて居る、其が不思議でならぬ其事を話して呉れ』甚『ヘエ旦那様の御尋ね故申します、實は



斯う云う譯でございます、貴所様が甲府町奉行の藤本壹岐守と云ふ人に爪腹を切らせ、鰍澤から東海道岩淵へ下りになつた時に、旦那の後を追跡た仲



間の護摩の蠅がございます、所がどうしても隙もなければ油断もない、どうしても物にする事が出來ないので據ろなく遠州の濱松から口惜がつて引返しました、濱松から此方は皆私の縄張りで、私は白子の勘六と云ふ護摩の蠅の頭でございますが……』庄『ハ、ア貴様達にも縄張りがあるのか』勘『ヘエ、其の時に手前達は意氣地のねエ奴だ、人の物を物する渡世でありながら、幾ら隙がねエからつて仕事をする事が出來ねエと云ふ奴があるものか、俺が乾度物にして見せると斯ふ言つて、私が仲間の者に約束をしました』庄『滿らんことを約束する奴だ』勘『私が仲間では人か

どうも取れねエと云ふものを取れば、仲貫禄が一枚上がるのでございます、外の間の云ふには手前さうは云ふが、外の者とは違つて梁川様ばかりは駄目だ、さ言ひますから、駄目だか駄目でねエか細工は粒々仕上げを御覧じろと云ふ事がある、見て居ろと私が言張つてそれから旦那の後を追跡たがどうしても往けません、種々考へて夫から私は晝夜の別ちなく甲州へ飛んで行つて、甲府でもつて悉皆旦那の身の素性を調べて來ました』庄『ハア甲府まで行つて貴様探つて來たか』勘『ヘエ御城代本田伊豆守様と甲府奉行に新規になんなすつた北條安房守様の所に手を廻して皆悉探つて來て、子分の者に吩咐け名古屋を御出立の後、御伊勢様から宮の熱田へ引返して袖戸の二番船にお乗んなさると云ふ事が分つたから、二番船を借切つて外の客を乗せないやうにして彼の乗合ひましたのは上方者や信州者越後者皆彼れは私の子分でございます

## 東京電報

**▲日英同盟効果説明** 清國事件費に關する議會委員會に於て內田外相は日英同盟は遺憾なく其効果を發揮しをれりと言明し遂に秘密會を開きて具さに説明する所ありたり

**▲驅逐艦引上げの命令** 第二驅逐艦隊に屬せる四隻上海より横須賀へ引揚を命ぜられたり

**▲上田軍司令官昇任** 既報の如く上田朝鮮駐劄軍司令官は大將に昇任して後備仰付られ其他各師團長の変迭ありたり

**▲獨逸と支那首都** 獨逸は支那新政府の位置を膠州灣附近になさしめんとし目下頻りに奔走なしつゝありと

**▲蓋平支那兵亂暴** 九日支那蓋平駐屯の巡防隊は日本の商店を襲ひ婦女を姦せんとするなど亂暴狼藉を極めたり

**▲亂暴代議士懲罰** 十三日帝國議會豫算本會議に於て政友會の遠藤代議士は國民黨の齋藤代議士に鐵拳を加へたるため議場大混亂を惹起せし後遂に遠藤亂暴代議士は懲罰委員に附せらる

**▲滿州革軍優勢** 奉天附近官軍の過半は革命軍に投降し革軍の勢益々優勢となり遼陽攻擊を急ぎつゝあり尚目下滿洲に在る革命軍は二萬五千人と計へらる

## 北京特電

**▲退位後に列國通牒** 臨時政府の首領は各國に向つて從前の通り政務執行上其條約を履行する責に任ずべしとの通牒を發したるも何等の回答に接せず殆んど無條約の姿なり

**▲臨時政府位置** 臨時政府は之を天津に置く事に決せり

**▲禁衞軍に訓戒** 退位の發表と共に禁衞軍は今にも爆發せん模あるが軍司令官たる馮國璋は命を發して其輕擧妄動を訓戒す

**▲退位後第一夜は無事** 皇帝退位後北京の警戒最も嚴重を極め諸官衙々に行はれしも退位後第一夜は無事なるを得たり

**▲皇族大官逃亡** 北京の皇族大官連は危險の其身に及ばんことを惧れ逃亡するもの多く其狀態たり

**▲政府成立前の政務** 臨時政府成立を見ざる間に於ける重大事件は上諭にて公布し其他は內閣より命令を發すべしと

**▲袁大統領に推され** 第一期の大統領は豫定の如く袁世凱たるべしといふ

**▲清帝待遇條項** 清帝の退位に關する條件は皇帝に關するもの八條皇族に關するもの四條滿蒙西藏諸王の待遇に關するもの七條より成れり

**▲新聞新政謳歌** 北京並に天津にある各新聞紙は共和政治を謳歌し中華民國の成立を祝せり

**▲革命牽制活動** 奉天の官軍蓋平方面に南下の報傳るや革命軍は牽制の爲め連山灣に投戈中の軍艦二隻を秦皇島附近に急航せしめたりと

## 雜報

**●日本海循環航路問題** 東北面 朝鮮と裏日本とを聯絡すべき目的を以て日本海循環航路問題が全國商業會議所聯合會に於て決定し其實行方法につき協議中なりしが今回突然淸津、敎賀直通を計劃して該循環航路の計劃を妨げんとするもの出でたるを以て內地側の關係地方伏木、七尾等の有志主として其筋に陳情し尙朝鮮側にては元山城津等と協議し兎も角淸津、敎賀をして循環航路に同意せしむべく旁々總督府の意向を聞くべく金澤商業會議所は野村喜一郎氏を代表者として十四日入京せしめたりと

**●本年度內鑛床調査地** 四十五年度鑛床調査計畫は豫報せられたる通りなるが尙本年度(四十四年度)內に一部調査を完結する豫定にて目下吏員派遣取調中なるが其復命を待て慶尙北道尙州郡を調査すべしといふ

**●朝鮮教育會總會期** 朝鮮全道に渉る朝鮮教育會第十回總會は來る四月初旬當地に開會すべく目下夫れ〳〵準備中なりと

**●民刑事令發期** 豫て總督府に於て審議立案中なりし朝鮮民事令並に刑事令は愈々來る四月一日裁判所官制改正實施の日に發布さるべく同時に改正訴訟令、登記令其の他手續令及印紙令等發布さるべしと

**●清帝退位の公電** 十三日午後五時東京淸國公使館發京城淸國領事館着電に曰く
皇帝退位せられ臨時政府組織を袁世凱に命じ、國號を大中華國と稱し赤、黃、靑、白、黑の五色旗と定む、各國駐在の外交官は從前の通り事務に從事すべし
と右公文は同領事館より本日發表の筈尙國旗は何日より揭揚すべきかに付き東京公使館に電照中なり

**●清帝退位外務省公電** 外務省より十三日退位上諭の發表ありたる旨十四日總督府へ電報ありたり

**●馬館中清皇退位通牒** 當地駐在淸國總領事馬廷亮氏は別報淸皇帝退位並に新國名國旗等に關し十四日當地駐在各國總領事及び淸國各領事に通牒を發したり

**●退位と支那人商務總會** 當地淸國人華商總會並に商務總會にては十四日馬總領事より淸皇退位其の他の通知を受けたるにより來る十八日午後七時より總會を開き在留民一般に右通知方法を講ずべしと云ふ

**●各道の郡守會議** 各道にては毎年一回宛事務の繁閑を見て管內府尹郡守を道廳に召集し會議を開く事に內定し居れるが目下開會中の京畿道を除き他は今年に入りて未だ開催を見ざるも何れ遠からず夫れ〳〵開會すべしと

## 懸賞論文募集

# 半島鑛業振興策

### 募集規定

一 懸賞金壹百圓

一 右は當選論文發表と同時に當該論文寄稿者へ贈呈すべし。

一 文章は論文體言文一致体何れにても宜敷成べく平易簡明なるを可とす。

一 當選論文の決定は本社爲嘱鑛業關係諸大家の審判に因るものとす、而して當選論文の數は一篇とす。

一 應募締切期限は來る三月一日とす

一 當選論文の發表は來る三月十日の本紙上に於て爲すものとす。

一 當選論文の發表は寄稿者の御希望に因り本名匿名何れになすも妨げなし但し匿名を要せらるゝ方と雖本社に對しては住所氏名を明かに通じ置かるゝ事

一 應募論文は當選外のものと雖應募者へ返還せざる事。

附記 本懸賞は實際的鑛業振興策を募集するものなれば文章の巧拙は敢て問はざるものとす

京城新報社

**●教育會幹事會** 十四日午後六時より當地高等女學校に於て朝鮮教育會の幹事會を開會す

**●鮮商取引改良** 京城に於ける鮮人相手の雜貨商は從來懸買代金の回收意の如くならず從つて取引上圓滿を缺きたる爲め一般の商人は昨年一月より從來の通帳制度を廢し月縮の金高を約束手形となし今日と雖も尙之れを實行しつゝあるが如何にせん鮮人の約束手形に對する思想幼稚にして多くは期限內に支拂を爲さず依つて右商人は之れが何等かの改良を講ぜんが爲め曩報の如く昨今商業會議所の問題として研究中なるが今其の改良方法として有力なりと稱する考案を聞くに商人は一同團結して一の組合を作り而して其の約手は組合より或る銀行に托し銀行より取立を爲し若し期限內に支拂ひを實行せざるものは其の旨新聞に廣告し同時に取引を拒絕せしむるにあることとなるが果して遺憾なく行はるゝや否やは大に疑問とすべしとのことなり

**●府尹郡守會議續開** 京畿道管內府尹郡守會議は十四日も引續き道廳樓上に於て開會されたるが當日は單に道長官の諮問案に止り午後四時散會したりと

**●京城民團豫算編成** 京城民團四十五年豫算案は昨今部面〳〵に依つて編成中なるが遲くも二十日頃迄には完成し其の上にて主査會を開き來月早々民會に附議すべき豫定なりといふ

**●轉任問題と委員會** 既報十三日午後五時民團役所樓上に於て開會されたる龍山小學校敎員轉任問題委員會は審議の結果近々道長官を訪ひ意見を質すことゝなしたりといふ

**●鮮人間の金融緩漫** 京城鮮人間の主要金融機關たる漢城手形組合の最近營業狀況を聞くに昨今朝鮮人間の大節季は既に餘日を余さゞるに至りしにも拘らず手形の保證額に至りては却つて平月より減少を來したるのみならず保證手形にして既に其の期限に達せしものは續々回收行はるゝ有樣にて鮮人金融の緩漫なる數年來見ざる程なるが其の原因は米穀土地の騰貴等其の遠因をなすと雖も近くは今年に至り內地資本家の入込みて南大門鐘路附近の鮮人所有土地家屋の買收を試むる者あり一坪約百五十圓を以て買入をなし京城鮮人間の金融を潤澤ならしめしに因ると云ふ

**●舊年末鮮人商況** 京城鮮商間に於ける舊年末の商況を聞くに本年は昨年の年末に比し不振にして既に十一月より荷動きなく一般の商人は唉聲を漏らしつゝあるが右は地方金融の逼迫と物價の騰貴とに因るものなりと而して最近一日の賣上高を昨年末の夫れに比較すれば米商昨年の賣上高は百五六十圓なりしもの本年は百三四十圓布木商は昨年に比し三割に充たず果物商雜貨商は約半額位にして菓子木炭商雜貨商も亦約半額位なりといふ

**●京城と石油需用** 京城地方輸移入の石油はスタンダード會社の上松票勝利票及びライジングサン會社の旗印の三種に限られ其の鮮人間に最も好評なるは其の販路の舊き歷史を有するだけ勝利票第一にして上松票は價格比較的高價なる爲め專ら內地人に依り需用され又た旗印は價格の廉なる爲め京城在住鮮人等は漸く之れを用ふるの傾向を生ずるに至り從つて輸入額も漸次增加の一方なれど地方鮮人に至りては殆ど勝利票の外は未だ顧るものなしといふ而して昨今石油の最も需用せらるゝ季節に於ける一ヶ月の輸入高は上松票勝利票を合せて一萬四五千箱旗印は六七千個を下らずといふ

**●仁川港の輸移出入品目** 去一月中仁川港に於ける輸移出入品左の如し(單位圓)

輸出及移出品

| 品目 | 金額 | 品目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 米 | 三二四六 | 豆類 | 一九八八六一 |
| 雜穀 | 七九 | 棉花 | 一四一三八 |
| 黑鉛 | 二五 | 牛皮 | 三三一五 |
| 肥料 | 二三三一 | 其他諸品 | 三三七一三 |
| 合計 | 二八三三八七 | | |

輸入及移入品

| 品目 | 金額 | 品目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 小麥粉 | 九〇三三 | 食鹽 | 一五七八三 |
| 果實種子 | 四五〇三 | 鹹魚 | 一三八三 |
| 罐詰食物 | 三三九九 | 砂糖精糖 | 一三三一九 |
| 淸酒 | 八五六四 | 麥酒類 | 二七〇七 |
| 石油 | 一六三九三 | 蠟燭 | 七〇 |
| 綿打綿 | 一九二五 | 綿織糸 | 三〇九二九 |
| 生金巾 | 八三二〇四 | 晒金巾 | 五六〇七八二 |
| 天竺布 | 三九 | 綿縮子 | 二〇九七七 |
| 日本木綿 | 三八六八 | 麻布 | 七九九 |
| 毛織物 | 二九六五 | 絹布 | 三三九三六 |
| 交織布 | 一三三五九 | 韓履物 | 一九七九 |
| 紙類 | 二〇一九九 | 諸文具 | 一三六六 |
| 書籍雜誌 | 五五七 | 熟鐵 | 一七三〇五 |
| 軌條 | | 鐵管筒 | 一〇九六一 |
| 附屬品 | 三〇〇三四一 | 鐵鍋釜 | 六六二五 |
| 鐵釘 | 三八一三 | 煙草 | 三三〇九五 |
| 機械類 | 六〇三三一 | 陶磁器 | 三二四三 |
| 石炭 | 二一八三 | 叺繩筵 | 一三九八一 |
| 木材板 | 三三八〇七 | 家具 | 三三四 |
| セメント | 三三一〇〇 | 木製品 | 六五五六 |
| 燐寸 | 八九五六 | 洋傘 | 一二五 |
| 爆發物 | 三七七八 | 其他諸品 | 一九六八七八 |
| 小包郵便物 | 一四三九五 | | |
| 合計 | 九八〇二八三 | | |

**●辯護士會の役員改撰** 京城辯護士會は十三日午後六時より商業會議所樓上に於て總會を開き役員の改撰を行ひたる結果會長に大崎熊之丞氏副會長に赤尾虎吉氏常議員會議長に岩田仙宗常議員木尾虎之助、岡田榮、皆川廣濟白井勝悟の諸氏當撰したり

**●日本辯護士協會京城支部** 十三日の辯護士會總會に於て京城に日本辯護士協會支部を設置することを決議したり其目的は朝野に於ける法律制定の改善人權擁護にして創立委員に大久保雅彦高橋章之助、皆川廣濟、大崎熊之丞、加古貞太郎諸氏を擧げ不日發會式を行ふへしと云ふ

**●李王妃殿下輕快** 風氣味にて御靜養中なる昌德宮李王妃殿下には十三日來經過最も良好なりと云ふ

**●朝鮮雜誌社の移轉** 釋尾旭邦氏主宰の朝鮮雜誌社は今回社務の擴張に伴ひ事務所の狹隘を感じ十四日旭町二丁目(朝鮮銀行社宅前)に移轉したり

**●昨年中度量衡販賣高** 昨四十四年一月より十二月末に至る總督府に於て朝鮮全道に發賣したる度量衡數を聞くに三十七萬九千四百五十個にして同賣價十六萬三千〇八十六圓八十九錢五厘なりと

**●駐日瑞典公使館書記官の入京** 在東京瑞典公使館一等書記官ノーロレタースタクルト氏は十四日午前〇時南大門着の直通列車にて奉天より入京ソンタクホテルに投宿せり

**●上林專賣局長の開城行** 上林參政課長は十三日開城に赤倉事務官は廣梁灣に十四日何れも出張せり

**●藥師川隊長開城行** 京畿道憲兵隊長藥師川中佐は十五日南大門驛發列車にて開城に出張同地軍隊慰問の奥村侍從武官と共に十六日歸任の筈

### 公人私人

▲石井幸一(英米煙草會社仁川支店主任)十三日山本投宿
▲高田稔(新幕憲兵分隊長)同出發新幕
▲植野作次郎(辯護士)同北京
▲永島嚴(平壤控訴院長)同平壤
▲向井巖(同檢事長)同
▲黑川穰(大邱檢事長)同大邱

▲京城手形交換高▼

| 月日 | 金高 | 枚數 |
|---|---|---|
| 二月十四日 | 二二七、四八九、三六〇 | 五九五 |

**●滿鮮直通列車乘客** 十三日午後八時三十分南大門發長春行列車にて神藤代議士、向井平壤控訴院檢事正外日本人四名外人二名乘込み十四日零時二十分長春發南大門着列車には東京駐劄瑞典公使館一等書記某氏乘込みたりと

**●基督敎青年會醫術講習** 皇城基督敎青年會にては朝鮮人の醫師に乏しく急の間に合はざる事あるを以て同會內に醫術講習會を設置し三月一日より授業を開始し約二ヶ月間に於て應急治療法を講習せしめんと目下計畫中なりと

**●漢江各所渡船開始** 昨今の暖氣にて漢江流域は殆んど解氷し氷上渡江は全然不能となり各渡船場は渡船を開始す

**●蠶島學校組合の認可** 蠶島の在住內地人は同地が京城民團役所區域外にあるを以て其の子弟を敎育すべき機關として蠶島學校組合を組織し同組合立尋常小學校を新設することゝし認可申請中なりしところ右は二月一日付を以て認可ありたりと

**●普通學校の農事實習** 全道各普通學校にては近來農事實習の趨勢頗る增加し養鷄、蔬菜栽培等甚だ成績良く而して其製品に對し品評會を開くなど實に喜ばしき傾向を呈しつゝあるため當局は頻りに奬勵し居れりと云ふ

## ●半島鑛業振興上の意見(其八)

▲峯尾音三郎氏談 朝鮮に於ける鑛山の數及び之れが經營者若しくは權利獲得者の數は農商工部の統計に依つて判ることは言ふ迄もないがサテ實際資本を投じて採掘に從事して居るものは何人あるかといふと其の割には極めて少ない之れには種々原因もあるが要するに從來朝鮮に於ける鑛業經營の計畫は却々困難であつた而して此の困難の重もなる點を擧げて見やうなら第一は假りに事業家があつて一ツの鑛山を發見したものとして資本家に相談に及ぶと其の資本家は躊躇狐疑して容易に資本を出さぬ、這はツマリ事業家其の者が金がない爲めに其の發見した鑛山を試掘して豫想の成績を資本家に示し資本家をして充分に其の有望であるといふことを納得せしむることの出來ぬこと、第二には叙上の事情よりして鑛山經營は一に資本家殺しといふ觀念が一般資本家の頭腦に先入主となつて居ることである更に第三としては縱し事業家が鑛山を發見したとしても其の發見した鑛山は既に業に或る事業家に依つて獲得され若しくは他の抵當物となつて居つて眞の發見といふことは却々容易でないといふ事である、尤も何處の國でも夫うであらうが朝鮮にも鑛山仲介人があつて種々な鑛物を事業家の間に持ち廻はつて起業の便宜を與へて居るがサテ愈々其の仲買人の言に從つて事業着手の段となると種々な支障が起つて來る、ヤレ用水不足の爲め精錬が不可能であるとかヤレ山の奥行が深いため人夫の勞銀や食費が高率に失するとかで却々豫想通りには行かぬ、といふと朝鮮の鑛山經營は一も二もなく悲觀に了るやうになるが決してソウでない大に有望である、成程雲山金鑛の如き大鑛山は將來と雖も容易に發見することは出來まいが小さい鑛山は朝鮮の地質上少なくないといふことは從來專門家の研究に依つて明かに示されて居るされば之れが鑛山の經營は大資本を要せず數萬圓の資本を以て充分に經營することが出來る、が唯爰に一支障のあることは從來は鑛山の權利獲得者にして叙上の如く資本の關係又は其の他の事情よりして採堀に着手して居らぬものに對して政府が期間經過後も一篇の延期願に依つて其の延期を許可する場合の多きことである、要するに之等の事は實際の鑛山經營者の爲めに不便此の上もなきのみならず一面には鑛山の開發を沮害するものである、であるから政府は宜しく期限內に着手しないものに對しては容赦なく之れが權利を沒却するが宜い、ソレから又政府は鑛業の振興を圖るため特別の法令を發布するが宜い其の特別の法令とは敢て言へば限りはないが補助金と迄は行かなくともマヅ鑛業經營上種々の監督を與へ又は事業の發展上改良指導を促すことにありだ若し夫れ鑛業資金の吸收策に就ては大に成案の熟するありだが并は遺憾ながら他日に讓らう云々

## ▲寒袋▼

朝鮮程重大事件の多い所も稀であらう尹男爵の捕はれたのも重大事件に關係してだと云ふ此の外揭載禁止になつたのやなつてるのや遠慮してるのやさせられてるのやの隱しを數へたら大した數になる事だ▲重大事件と其筋で云ふても吾人に取つてチットモ重大事件でない事がある此事件なぞも或は其種ではあるまいか▲其種でないホントウの重大事件なら一々チヤ〳〵と檢擧せず監視を怠らずに一つ爆發さして其色彩が明になつた所で一網打盡の荒療治を行るのが得策だらう勿論多少の犧牲は覺悟の上でさ▲考へても見るがよい狡猾な狐になると鼠の天ぷらの三つもしてやつた後でなければ油斷しないぢやないか、馬鹿でもチヨンでも先方は人間だよ▲李址鎔の莫迦は今更ではないが尹致昊男なぞを所謂重大事件に關係させるとは、嗚呼果して誰の罪ぞやと云ひたくなる▲慶南北道地方で此頃鮮人の耶蘇敎信者が續々と敎會に脫會を申込む、其原因を彼等脫會者に尋ねると、彼等の言ひ分が頗る面黑い▲彼等曰く我々は死後天に昇り其子孫は大なる幸福を享けて、富と榮華を併有し官吏に登用せらるべしと信じて入敎したものだ、然るに未だ死者の天に昇つた者も無ければ、死者の子孫にして金持になつたものも又官吏になつた者も無いばかりか、日曜毎禮拜に時間を潰すは餘計な事だと。

●おのぶ述懷談 本日休載

宗匠訪問錄（八）
香茶生花琴三味線踊や唄の師匠巡り

## 踊 華元いわ女

府廳の横を這入つた左側人力車宿の隣家でやヽ玉足袋の主任さんのお主婦さんが左樣なのだと聞いて足を向けた薄曇つた日の午後四時頃通された六疊の間にはもはや夕暮の色が覗いてゐる誰家の女か人形の樣な可愛い方が野崎を踊つてゐた友染の派手な振袖がヒラ／＼と一擧手一投足に連れて舞ふ若い人達の胸を躍らす如な艶つぽい唄の文句も然した頑是のない子供には何等の刺戟も與はないものか只師匠に賞められたさ親に喜ばれたさが一杯で無意識に動いてゐるのだ。了つた子はお師匠さんにほーきにと叮嚀に頭を下げてから手拭をたヽんで母親に手を引かれて出て行つた。お稽古の濟んだ師匠はやをら膝頭を私の方に向けて『什麼な御用なのですか』と色の澁い程白い顏が薄暗い部屋の中に歴然と浮んでゐる昔を想はせる、あ、その事ですか、ソレは昨年でしたか御用の柳さんといふ方が御見わになりまして種々と御尋ね下さいましたがお話するほどのこともありませんので申上げませんでしたが矢張貴方も御用の方なのでしょう、と眼を光らす、ア、新報さんですか……けれど眞實に御話することがありません、師匠ですか、**師匠は華元かめ**と申しまして大阪では名高い人なのですけれども私はホンノ弟子といふだけで御座いましてトテモ師匠の何のといふ柄ではありません、と莫迦に謙遜な口調で語る、**お稽古は八歳の時**から致しましたソレで**十五の歳**には耻かしながら**師匠**となりました朝鮮に來ましたのが明治四十年の春で丁度京城に博覽會の開かれてゐた時でした其の當時は**精華亭**さんや**井門**さんに**御贔負**になりまして出稽古をして居りましたが病氣に罹りましてから暫らく廢めて居りましたが只今では皆樣の御懇ろなる御勸めに依りまして一切出稽古はせずに自宅でお教へをしてゐますのでお弟子はお**子供奥樣**方で**藝妓**衆などで四五十人はお見えに成ります、鍋遊樂のどんぼさんですが彼のお子さんはお母さんがア、したた巧手ですからお宅で稽古を成さつて厶います、エ、お器用な事、先日のお芝居なぞもホンに驚き入りました、お稽古をなさるのは幼少の時からでも中年からでも**御當人の器用不器用**に因りますもので大した差異のあるものではありません、踊は御承知の如に立ち座り一口に申しましたら、**行儀萬端が優雅**になりますので皆さんがお稽古をなさるので御座います……と一息したところに主人公が歸るお弟子が二三人來したので先樣も口を噤む私も遠慮して歸つた腦裡には紺い友染の華美な模樣と師匠の用心深いオットリとして對話振りと、金鈴を振る如な美しい聲とが明かに印象されて居る

●強盗とは實は自分
▽共同經營店の賣上横領 中部寺洞三十四統六戸洋雜貨店永和商店と云ふは金在銘、金均祚、趙東升、崔相鐵の四名が各五百圓宛を出合せる共同經營の店舗にて輪番に一名宛宿泊することになり居れるが十三日午前四時頃前記の金在銘が當番にて只一人就寢中何思ひけん鐵橋派出所に駈け込み只今二名の覆面せる強盗表戸を破壞して闖入し携へ來れる角燈を以て室内を捜索したる上手提金庫を發見し鍵を出せと脅迫するより鍵は父が持ち歸りたれば其處には無しと答へしに右手提金庫を強奪して立ち去れりと訴へ出たるも舉動不審の點あり北部署に急報し筒井大久保の兩刑事の臨檢を求め再び取調べたるに辻褄の合はぬことを述べ立てるのみか態度もソワ／＼として顏色常ならざるより身体を檢めたるに現金百二十六圓十錢現はれ出でたれば恐れ入つて實は名は強盗に籍り共同經營に係る賣上金を竊取せんとの目的なる事を自白に及びたり

●人車電車と衝突
▽人力車挽の不注意 十三日午前十一時四十分頃毛橋洞統戸不詳の車夫柳西根（三九）が壽町一丁目井上久德方雇人石田よし（二四）を乘せて西小門に行く途中長谷川町入口の電車踏切に差掛りたる時龍山行き電車六十九號が疾走し來たりアハヤと云ふ間に衝突し人力車は轉覆したるが車の心棒を折り兩人共微傷を負ひたるに過ぎず直ちに安東病院にて手當を施こし車修繕費一圓は會社より支拂ふこと丶し双方を戒めて放還さる

●大村百藏氏訴らる
▽借債未償の爲め 龍山祝町五十三番戸大村百藏氏は京城辯護士蟻生十郎氏の連帶を以て昨年八月一日仁川山手町三丁目今田俊三なる者より同年十月三十日返濟期限の約束にて金九十圓の借債を爲したるに同期限經過後何度督促を受けても返濟せぬより十三日今田より仁川區裁判所に訴へ出でたり

●秋吉氏又訴へらる
▽土地所有權の確認問題 京城南山町秋吉富太郎氏が去三十八年頃京畿道富平郡石川面上里所在草坪約一萬坪及び同所々在宅地約一百坪時價金五百圓也を同地徐丙興より買收し爾來秋吉氏の所有たりしに該地は同郡同面九芝里三統一戸徐相晋の所有なりとて徐は此の程に至り秋吉氏を相手取り該土地所有權確認並に引渡請求事件を仁川區裁判所に提起したり



●大和町の晝火事 十四日午前十一時市内大和町二丁目九十五番戸篠塚國雄方の溫突より出火し三戸全燒半燒二戸にて十一時四十分鎭火したり

●演藝會實行委員會 仁川演藝會開催に付ての實行委員會は十三日午後八時民團樓上に於て開會さる出席者は萬玉、美濃谷、前田、八田、長野、永井、高田の七氏にして協議の結果興行を三日間とし一素人義太夫、二藝妓手踊、三小供手踊、四活動寫眞、五吾曲合奏、六琵琶、七劍舞等とし演藝係に美濃谷、長野、奥田、秋田、萩谷、河野、萬玉氏を會場係に藤村、高田、村谷、永井氏を販賣係に前田、宅、八田、北川氏を會計係に森氏等を舉げ十五日午後二時更に各委員相談會を開催の事に決し同九時半散會せり

●嘸痛かんべねに 南部往十里大井洞農成煮萬（二二）同鄭今用（二八）同末用三（二二）同陽地洞農安先吉（二三）の四名は十一日午後九時大井洞土幕にて▲南部往十里長趙李崇成（二八）同深井洞黃錫萬（一八）の兩名は十二日午後二時大井洞にて賭博中銅峴分署の手に捕はれ各笞刑三十に▲南部仁昌面華陽亭里農車永根（三〇）同鄭順奉（三五）同尹伯千（二二）同洪石榮（ヒ）の四名は十二日午後九時同里土幕にて賭博中捕はれ銅峴分署にて各笞刑五十に處せらる

●北部署刑事の清廉 十三日午前十時頃南部詩谷妓生組合より舊年末に際して明太魚二百疋雉十羽を各自宅に贈りたるを署に持ち來たり贈與者を呼び出だし懇々其不心得を戒め擔軍に背負せて持ち歸らせたりと薄給の彼等が淸廉の志感ずべし

●玉の吸口 十三日午後十時頃鐘路派出所の巡査補李承烈が見張中急ぎ足に行く一名の鮮人を舉動不審として取調べたる處懷中より玉の吸口二個價格十圓の物現はれたれば嚴重取調べたるに同夜廣橋通りの海東商會より竊取し來たれる旨を自白したるが尙餘罪ある見込みにて取調べ中

●鐵道枕木の漂着 仁川府西面里西海岸小岩ホへ去八日の風波にて何處よりか鐵道枕木長さ約八尺位の物三百十本外楔一挺漂着し同里民より舊邑面巡査駐在所へ屆出でたるが尙所有者不明の爲め同里長鄭憲澤方へ保管せしめ居り

●夫は私の子です 十三日午後二時半櫻井町路上に迷兒あり通り合せた警官が保護中櫻井町三十八番戸佐藤初太郎が派出所に來たり自分の長男諒一（四つ）と云ふ者なりとて厚く禮を述べて引下る

●日韓禪寺と涅槃會 曹洞宗初開道場日韓禪寺にては十五日午後一時より釋迦牟尼佛涅槃會嚴修並に說教禪學道話等ありと因に同寺主管大隆大定師の話題は『佛陀最後の教誨』

●郵便所長の檢事局送り 過般詐欺取財犯にて檢舉せられたる前龍山坊靑坡郵便所長池田元助は十三日龍山警察署より京城地方裁判所へ送られたり

●娼妓の步行越し 大和新地榮月の抱へ浪花事北方みね（二二）は十一日午後一時大和町に行くと稱して外出認可を受け南大門驛前に行つた廉により科料一圓に處せらる

●悲慘な一家へ惠み 仁川寺町悲慘なる一家族たる竹本寅吉へ本町四丁目藤富牛乳店より十四日牛乳三升惠與せり

●仁川で遺失 龍山元町三蒲原さくは十三日午後仁川栦峴驛前にて一圓遺失

●演藝だより
▲浪花館 圓若一行にて十五錢の均一
▲歌舞伎座 同座は十五日は大割引にて特等を除く外三十錢均一にて狂言は前『久里加良白太郎傳』切は義士銘々傳の内『不破數右衛門』なりと

藝妓の一萬圓處分法

病院に行くところなのよ……フントウ仕過ぎたんだらうてマア憎らしいと謂ひながら腰を下した二十二三歲の慄ひ付きたいと思ふ程でもないがハキ／＼した女だ

## 由良家の小萬、

二千圓は岡山の孤兒院に寄附したいと思ふの子供の時代にック／＼哀れな孤兒に泣かされたことがありました、ソレからね、私は軍人が大好きなの、カーキ色の軍服姿！鏘々鳴る軍刀の響き想ひ出してもゾク／＼しますよ、だから私軍人に關係した事業、ソレあの何とか謂ひましたのね、左樣々々、廢兵院、あれに三千圓寄附しますよ、氣障なことばかり云うつてでも仕方がありませんよ、心にも無いことは謂はれませんもの……私には弟が一人ありましてね東京で現在勉強してゐるんですから學資金に二千圓送つて遣りたいのと云つた顏には憂愁の雲が浮んだ……そして君はヤツパリ藝者か……エーどうせ忌な社界に沈めた躰殘りの三千圓の金で朝つから湯豆腐にこのわたか何んかで毎日二升宛と極めて飮んで一生を暮したいと思ふの。

（情歌 柳巷だより）

▲失踪したやんま茶の隱家も今は斜の貸家札にもの丶哀れを止めて居る、春まだ寒きけふ此頃をいづくの空にはかなき唄ひ女の半生を泣いて居るだろか、さるにても民さんの寢覺めこそ極めて惡いこと丶察する、それかあらぬかやんま茶に關する諸拂は四五日前から巴城館の方で始末をつけていると言ふ

果ない浮名に遂憧がれて
末は身を燒く灯取虫

▲二月をかぎりに足を洗ふ翡翠の江戸奴は近來ぐつと素人染みて本町通を忙がしそうに歩いて居る、長火鉢はあれに極めて茶簞笥はあれにしよう、あのダイヤも惡くないねなど、頭を使かふ事もたびたびしいとの話だ、就中煙草屋の虎さんの前は頗る非常に大手をふつて通行するとは御尤な評判

念が届いたうれしい胸は
人に言へない事ばかり

▲四五日前の宵闇を靜養軒のほうから下りて來た二人連れ、旭町にこの頃出來た松の家といふ奏とゐ屋へ這入つてとろヽのお代りをして立出てたが、二人の顏はまだ夜寒の小路に消ねた女は春色梅暦でお馴染の藝者だが男は……

忍ぶ二人に朧ろの松が
塀から手を出す曲り角

## 藝妓の性相と運命（二）

### 天象子觀識

目下京城ホテル別館（翡翠樓前）に於て一般運命鑑定中なる天象子に於中の閑を割いて標題の如な事を囑して快諾を得た、何しろ忙がしい中での鑑定執筆だから毎日と云ふ譯には行くまいが兎に角讀物として當人の心得として面白い事と思ふ。（一記者）

### 花月樓光菊

お前さんは心性質と營養質とが比例よく發達した方の柄で居常ヲツトリした氣の優しい人である、美麗性や靈妙性が眉と眼との間に顯はれてるから何かした事があると神や佛に手を合せたりお稻荷樣に油揚を供養する如な事に割合に熱心である、好な男にでも浮氣をされたり他所／＼しくされたりすることが有るとしても奴夫れを自分の力……即ち腕で燃を戻さうなんと云ふ氣は出さずに神や佛にお縋り申したくなる、若か**變な夢**でも**見ると無暗に氣に仕**て擔ぎ廻る方だらう氣が優しくて一種人を魅する質だから小供の時分から隨分可愛がられて來たものだ、此れは現在も將來も變りなく可愛がられるに相違ない、イヤ今暫くの間は可愛がられるとよりは男が現を拔かすだらう、其の男が現を拔かすと云ふのはお前さんのヲツトリとした所や優しい所のみに打込む斗りぢやないのだ、お前さんの小腦は著しく發達して男女性——**色情口說的**の——が**過敏に働**いて一度情意投合するや情緒纏綿柳絮の如く喃々たる情話痴語蜜の如くヲヲカリンの如きものがあるからだ、判り易く云へば口說上手だ、此の恐るべき魔力を有する男女性は猶現在より徐々と發達して二十五六から三十歲前後に至つて最も過敏に最も猛烈に發達する、が併し夫れを有るに任せ發達したに委せて**濫用**せぬようにせぬと**牛涯子供**が**出來無**くなる。夫れからお前さんは氣が優しいと同時に意志が弱いのだから大きな事を行らうとしても行り遂げる事は難かしい、二十四五から中年の終りまで相當福分もあり先づ調子も順に大した波瀾苦勢はない、常も春の如な長閑な月日が送られる、が併し晚年の**四十四五歲**から**先**になると**運勢**がヽ**下向**いて來る、小供に緣が薄いとか早く別れるとか夫れが爲めとでも云はうか自然は御亭主が自暴を起して浮氣をする、元來お前さんが好く程の男だもの他所の女も好く其所で自然其方に深くなると云つた風の苦勢がある**亭主は官吏か銀行員、會社員**なぞが好しい、夫も**鼻のムックリ隆い人を撰**ばないと思いも寄らぬ苦勢をしたり二度の勸めをすることに成る、勇肌な人が好きだなんぞと哥兄の女房にでもなつたら夫れこそ一生駄目、運の開く時は無い、一步過ると**當分外妾**の如な者にならうも知れぬが左樣場合に旦那の不在を好い事にして例の情緒纏綿の男女性を活動させて役者の摘み喰ひなんぞをやらかそうものなら夫れこそ大變、早速感付かれてお手打の成敗は免れない。

附記 寫眞に現はれた丈て生年月も何もかも一切知らされないのだから大体に過ぎないこと云ふことを承知して頂きたいのである（天象子）